

特別認定（二）（三）（四）（2単位）

担当者氏名 小栗 秀、伊藤 博武、亀山 祐一、相馬 幸作、寺澤 和彦、吉田 穂積、中村 隆俊、平山 博樹

◆学習・教育目標（到達目標を記載）

学術論文作成法（一）、（二）のいずれか又は両方の講義を経て、指導教員の指導の下に研究成果を英文の学術論文にまとめ、審査付き国内・国外学会の学術誌へ主たる論文（単著または筆頭著書）を投稿し、掲載された場合に、専攻内会議に当該論文を提出、論文作成の経過、要点の説明後、妥当性を審査する。最終的に研究科委員会の審議を経て単位として認める。下記内容の授業を受けながら論文を作成し、論文の完成と投稿、受理にいたる過程を経験することを到達目標とする。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

作物生産	自然生態系	植物資源	バイオテクノロジー
分子生物学	動物資源	家畜生産	発生工学

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	論文内容決定(第1週)	・指導教員との議論から論文内容を立案する	◎最新の投稿規定を取り寄せること。
2	要約の作製(第2週)	・科学的な文章を指導教員の添削を通して学ぶ。	◎研究結果をまとめておく。
3	緒言の作製(第3-4週)	・論文の主題に沿って、研究の背景と論点を提示する。	◎該当する分野の最新の論文を毎日チェックし、EndNoteを使って論文を管理すると便利である。
4	図表作製(第5-6週)	・結果のまとめ方、統計処理や作図法を学ぶ。	◎参考論文は番号をつけてファイリングしておこう。
5	結果(第7-9週)	・論理的な文章作成を学ぶ。文章は短く明確に書く。	
6	考察(第10-12週)	・適宜文献を引用しながら、具体的に結果を検証する論理的な文章作成を学ぶ。	
7	参考文献と調整(第13週)	・論文のフォーマットを守ることが最低限のマナー。	
8	投稿・査読者への対応(第14-15週) (第1-15週は、履修者の指導教員が担当する。)	・査読者とのやりとりは特に重要である。慎重にコメントを読み、謙虚に論文を見直し、最大の努力をして査読者への返事を書く。必要ならば実験を追加する。	

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）
書名／著者／発行所（発行年）

◆授業をより良く理解するのに便利な参考書・資料等
書名／著者／発行所（発行年）

科学者のための英文手紙の書き方/黒木登志夫他/朝倉書店(1994)

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

論文により評価する

◆オフィスアワー

昼休みに各指導教員の居室を訪ね、不在の場合は居室の掲示で確認する。メモを残す、メールで質問するなどの対応をしてください。

◆その他受講上の注意事項